

*** 岡山天体物理観測所開所記念切手 (1960年10月)**

東京天文台岡山天体物理観測所は1960年10月19日に開所式を行なった。この岡山天体物理観測所開所を記念して郵政省は記念切手を発行した。天文台関係では何回か記念切手が発行されている。筆者の知る限りでは、東京天文台75周年記念、岡山天体物理観測所開所記念、東京天文台100周年記念の3回であるがそのほかにもあるかもしれない。写真1が岡山天体物理観測所開所記念切手である。



写真1 岡山天体物理観測所開所記念切手

この図柄の元になった景色が写真2である。

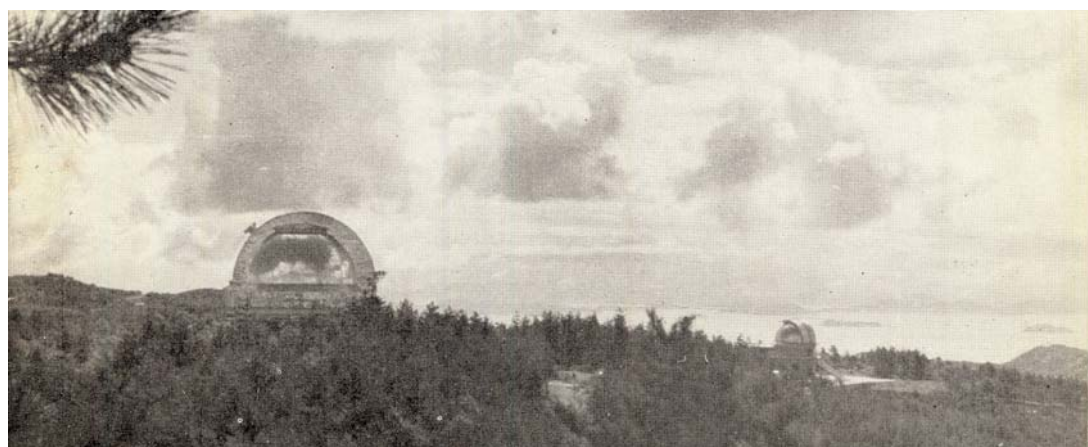


写真2 観測所の北にある竹林寺山山頂からの眺め

岡山天体物理観測所は、日本で初めて天体物理学ができる望遠鏡をと全国の天文学者の願望で建設された。筆者は、高校生の頃、現在の新倉敷駅（当時は玉島駅といった）から広島県東部の福山駅まで汽車通学をしていた。汽車が鴨方駅に近づくと右の車窓の山の頂にだんだんとドームが建設されていく（写真3）のを眺めていた、ドームが完成するとイギリスからやってきたエンジニアが帰りの汽車に乗り込んできた。そんな光景を見ながら卒業したらその天文台に就職したいと考えていた。そして希望通り1961年3月には天文台に通っていた。



写真3 建設中の188cm望遠鏡ドーム

記念切手発行はけっこう大変な事業だと認識したのは、筆者がハワイに建設した「すばる」にかかわり、1999年9月の「すばる」完成記念式典で元総理大臣海部俊樹氏の祝辞の中で約束した3件の一つが「すばる」完成記念に記念切手を発行させるという約束が果たせなかったことであった。郵政省の記念切手発行には決まりごとがあり、国内の記念事業でないハワイに完成した望遠鏡の記念切手は発行できないとかで、元総理大臣の意向も無視されたのであった。

この記事を書くにあたり、アーカイブ室新聞116号で紹介した元暦計算室職員溝原光夫氏から提供された資料の中の岡山天体物理観測所関係のパンフレット類を参考にした。筆者のように岡山天体物理観測所出身の職員でも容易には当時の資料が出てこないのである。こういったパンフレット類もまとめてアーカイブしておくことは大切な事だと思い知った。

さて、開所のころのパンフレットをめくっていると、当時188cm望遠鏡は世界6位の大きさであった事が知れる(表1)。8番目に記載されているが、188cm望遠鏡より大きい望遠鏡2台が建設中であるからか、しかし、筆者が入った時には世界7位、東洋1、当然日本1と聞か

されていた。もっとも4つの188cm望遠鏡はすべてイギリスのグラブ・パーソンズ製で、そのうち3つはすでに完成していたから当時7位と言われていた理由もよくわからない。

世界の大望遠鏡 (どれも反射鏡式)			
口径 (cm)	天文台名	国と州	完成した年
508	パロマー山天文台	アメリカ・カリフォルニア州	1948
305	リック天文台	アメリカ・カリフォルニア州	1958
258	ウィルソン山天文台	アメリカ・カリフォルニア州	1917
249	グリニジ天文台	イギリス	建設中
208	マクドナルド天文台	アメリカ・テキサス州	1939
203	キットピーク国立天文台	アメリカ・アリゾナ州	建設中
190	オート・プロバンス天文台	フランス	1959
188	岡山天体物理観測所	日本	1960
188	デビッド・ダンラップ天文台	カナダ	1933
188	ラドクリフ天文台	南アフリカ	1948
188	ストロムロ山天文台	オーストラリア	1955
188	ヘルワン天文台	エジプト	建設中
184	ドミニオン天文台	カナダ	1919
175	パーキンス天文台	アメリカ・オハイオ州	1932

表1 当時の大望遠鏡のランク表

また、当時の岡山天体物理観測所のパンフレットの一番立派な188cm望遠鏡の写真が写真4であるが、この写真は岡山県広報課提供とある。ということは、当時、岡山天体物理観測所ではこのような写真を撮ることができなかったということのようだ。撮影機材が十分でなかったことが伺われる。

2009年の現在、岡山天体物理観測所の188cm望遠鏡が世界何番目の大きさか理科年表を繰ってみると、世界の主な光学赤外線望遠鏡の項に36台が載っているが、岡山天体物理観測所の188cm望遠鏡は出てこない。36位は3mのNASAのIRTFである。そして日本の主な光学赤外線望遠鏡の4位にやっと出てくるのである。日本の1位はハワイに建設した「すばる」である。そして「すばる」は世界で8番目の大きさの望遠鏡になっている。驚くばかりの望遠鏡の開発が行なわれたものである。我々が渾身の思いを込めて建設した「すばる」は現在でも世界最高性能を誇っていると考えている。それは他の大型望遠鏡が主焦点カメラを持たなかったからであり、現時点で、最遠の天体ベスト20までのすべての発見は「すばる」に

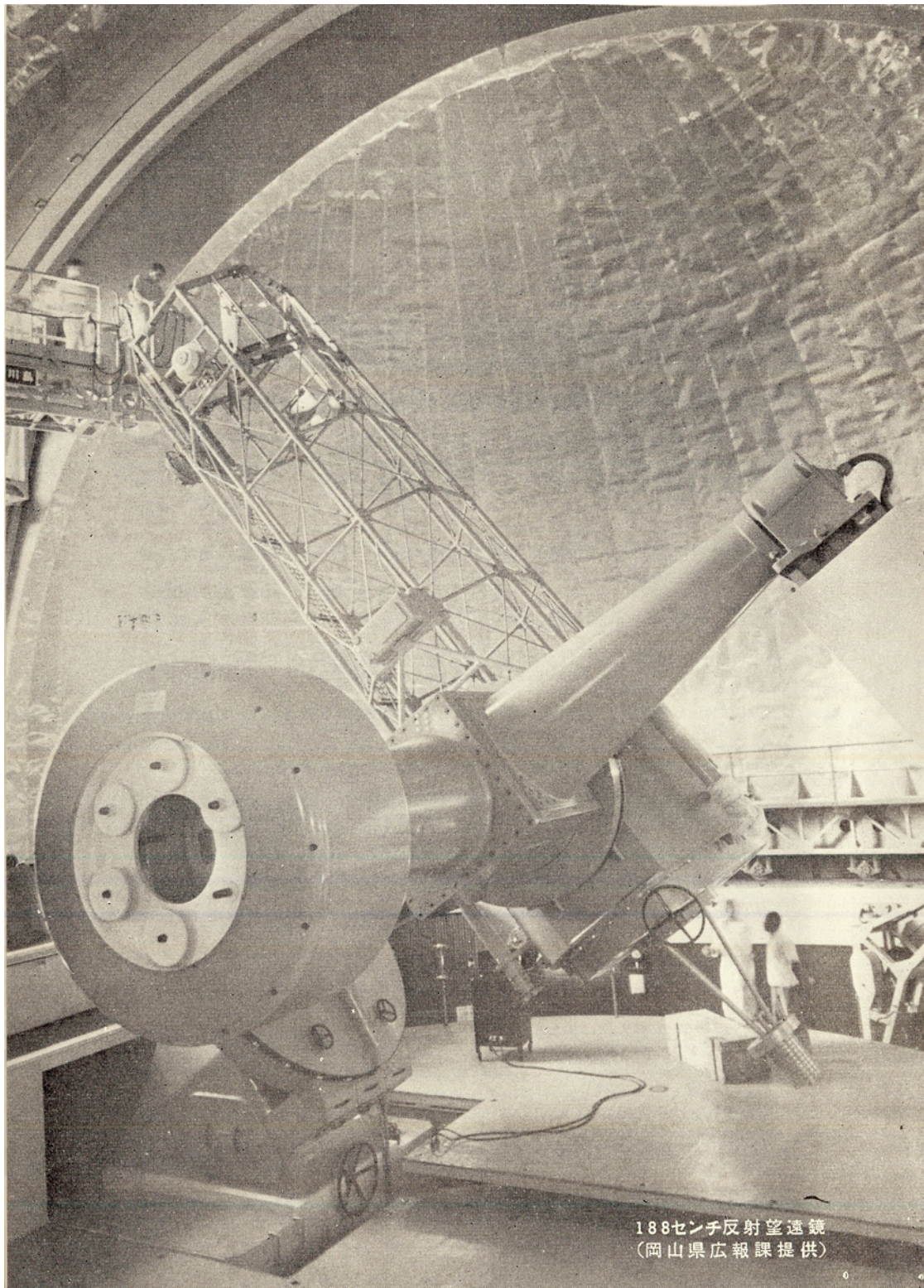


写真4 最初の頃の岡山天体物理観測所パンフレットに載った188cm望遠鏡
よって撮影されたものである（家正則教授談）。

時代は流れ、技術は進み、素晴らしい望遠鏡が出現する。まことに嬉しい限りである。
しかし、その時代、その時代の寵児であった望遠鏡も忘れられていくが、まだまだ188cm望

遠鏡は頑張っている。それは観測所の方々の不断の努力による最新技術の導入の賜物である。これからも頑張ってもらいたいと思っている。

革新を続ける一方、捨てられていくものもある、写真5は188cm望遠鏡の建設時の制御卓である。今は、計算機制御になりこのような制御卓は不要となり、一時は廃棄され、風雨に打たれていたが、現在では科学館に引き取られ、展示されていると聞く。



写真5 当初の188cm望遠鏡制御卓

写真6の3枚の写真は、東京天文台関係の記念写真3枚である。



写真6 東京天文台関係の記念切手